

























勝連町指定文化財4号

民族資料（無形民俗文化財）

ジトウ デー ヒ メ カン
地頭代火の神

字浜の公民館敷地内に、コンクリート製の^{しょうし}小祠があり、その中に火の神の依り代として三個の^{たま}靈石を祀った^{まつしろ}拝所である。

琉球王府時代、浜には地頭代のおえか^{えか}地（役地）があり、地頭代となるには先ず浜地頭を務めなければならなかったという。「地頭代火の神」が奉安されたのはこの為とされ、貴重な歴史・民族文化財である。尚現在の小祠には、『琉球国由来記』に記される「^{トラン}殿（浜里主所）」と合祠されている。

今でも、立身出世の神として、進学、旅立ちに際し祈願する慣わしになっている。

文化財保護条例により、勝連町文化財に指定します。

平成7年2月20日 勝連町教育委員会













アガリ ウメキ
東の御嶽 (シヌグ堂)

この御嶽は、旧暦の6月28日と8月28日の2回「シヌグ祭り」が行われることからシヌグ堂とも呼ばれています。

シヌグ祭りは、昔、戦に敗れた南山の「平良忠臣」とその一味7～8人が浜に渡って、シヌグ堂に身を隠し、住民に頼んで島の周囲を警戒させて難を渡いだという故事から始まっています。

海に生きる島で、その生業の妨げとなる時化を祈願するのは不思議ですが、他の地方ではみられない行事です。



絵画：うるま市教育委員会































ヤマトウンチュー墓

鶴巻町指定文化財第9号 史跡

YAMATUNCHU GRAVES

Katsuren Town Designated Cultural Asset No.9 Historical Site

ヤマトウンチュー(大和人)墓は、天保10年(1839)の水戸藩領那珂湊の廻船が漂着した歴史を伝えるものです。天保10年水戸藩廻船漂着文書には、救助された水戸領の周蔵と仙台領の宇(卯)太郎は、無事帰国することができ、救助前に死亡した南部領の五助(18歳)、源助(50歳)、亀松(31歳)、仙台領の吉蔵(30歳)、仲蔵(47歳)の5人をこの地に葬ったと伝えられています。

本来は、アダンの繁った浜の砂丘にあったが昭和61年～平成3年の浜一比嘉間の海岸線道路建設などにより、現在地に移設されました。町内に唯一残る漂流者墓碑であり、浜比嘉島の人々の博愛精神を表すものです。

Yamatunchu Graves (burial ground for people of Yamato, aka Japan) evoke a famous shipwreck which occurred in the 10th year of Tenpo (1839). According to the Mito Province Records of Shipwrecks for the 10th year of Tenpo, Shunzo of the Mito Clan and U Taro of the Sendai Clan were rescued and returned safely back to their homes. However, five seafarers died before rescue arrived and were buried here. These were Gonsuke (18), Gensuke (50), and Kamematsu (31) of the Nambu Fief, and Yoshizo (30) and Chuzo (47) of the Sendai Fief.

Originally these were located on a beach with a profuse growth of Adan trees, but the Yamatunchu Graves were relocated to their present site during the 1986 - 1991 construction of the Hama - Hiza causeway. This lone gravestone for lost wayfarers remaining in the town reflects the philanthropic spirit of the people of Hamahaga.













A vertical wooden post with a natural grain pattern. Two white rectangular labels are attached to it. The top label contains two lines of black Japanese text. The bottom label contains a single line of brown Japanese text. The background is a blurred green, suggesting foliage.

このカーは、宇比嘉のウブガーで、正月元旦の若水
をくむ井泉です。

うるま市教育委員会









































































シルミチュー ミルク門の由来

この場所は琉球開びゃくの祖神アマミキヨ・シネリキヨの住居跡と言われている。シルミチュー霊場の出入口との伝承場所で通称ミルク門と言われている。ミルク門は古代時代の地殻変動でバマヒガムイから落下した巨大岩が3つ以上に割れて出来た岩空間で、その岩空間は・・・

- 右側の舟の形をした岩はニライカナイ龍宮を行来する海の神が宿る岩舟
- 左側の切り立った岩は子孫繁栄、縁結等の神々等が宿るカガミ岩又はテーダ岩
- 奥の小さなガマがある龍と亀の形をした岩は、テーダの神、龍宮の神々が宿る龍亀岩等からなり、ミルク神が出入し、古代より神事行事、儀式等が行われていたこの伝承場所で願いが叶えられるとのことで崇拝されている。

























勝連町指定文化財6号

民族資料（無形民俗文化財）

シルミチュー

宇比嘉の南々東端の森の中に大きな^{どうけつ}洞穴がある。
地元では琉球^{りゅうきゅう}開びやく^{あひやく}祖神、アマミチュー、シル
ミチューの居住^{きゅうじゅう}したところと伝えられている。

毎年、年頭^{ねんとつ}拝みには比嘉のノロ（祝女）が中心
となって、海浜^{かいひん}から小石一個を拾って来て、洞穴内
に安置された壺^{つぼ}に入れて^{おぼ}拝んでいる。また洞穴内
には鍾乳石^{しょうにゅうせき}の陰石^{いんせき}があり、子宝^{こだから}の授^{さづ}かる^{れいせき}霊石とし
て崇拝^{すうはい}され、信仰^{しんこう}の広い^{まじよう}貴重な^{れいじよう}霊場である。

文化財保護条例により、勝連町文化財に指定します。

平成7年2月20日 勝連町教育委員会

平成7年2月建立





























































